

第2回委員会の主な意見と回答

諮問				
(1) 第4章「史跡の本質的価値」について				
No.	委員	委員発言	当日回答	備考
1	小畑委員長 熊本県	「本質的価値」「副次的価値」の分類について。史跡外でも本質的価値が何か、及び本質的価値に関する副次的価値が何か、とするとよい。副次的価値は、本質的価値を解説・補強するため、見学者に理解してもらうためにあるもの、という考え方で改めて整理を。	修正する。	修正済み
2	浅川副委員長	七本柿木台場薩軍墓地周辺の未調査の箇所を追加した方がよい。	七本方面の未調査の箇所を本質的価値に含めて、今後調査の対象にできるように修正する。	検討中
3	浅川副委員長	第1節「史跡の本質的価値」について、「田原坂の戦い」とは西南戦争の帰趨を決めた戦いである。「多数戦死者を出し、戦争の帰趨を決した激戦だった」とした方がよい。	該当箇所の「全体の4分の1にもおよぶ戦死者を出した激戦」を「全体の4分の1にもおよぶ戦死者を出し、戦争の帰趨を決めた戦い」と修正する。	修正済み
4	高木委員 前川委員	第2節の「戦没者慰霊祭」は「慰霊行事」ではないか。また、第4章第2節の「地元有志などによる」は、「地元有志の方々」が良い。	「各地での戦没者慰霊祭」を「慰霊行事」に、「地元有志など」を「地元有志の方々」に修正する。	修正済み
5	浅川副委員長	「田原坂の戦い」は坂道1本の戦いではない。史跡指定の地点と、戦場としての地域がわかる地図がよい。	「国史跡指定地内の構成要素」の地図の前に、玉東町を含めた大きな範囲で戦跡を面として捉えた地図を挿入する。その次に、史跡の点をおとした地図を挿入する。	修正済み

諮問				
(2) 第5章「大綱と基本方針」について				
No.	委員	委員発言	当日回答	備考
6	前川委員	当時の景観の保全は現実的ではない。現状とした方がよい。当時の景観からの変化も歴史の一部である。	第2節「当時の景観」を「周辺の景観」「現在の景観」などに修正する。	修正済み
7	小畑委員長	第2節「基本方針」とは、何の基本方針であるのか。	それぞれ「保存管理」「活用」「整備」「運営体制」の基本方針である。その後、第6章から第8章で詳細を説明する。 「保存管理の基本方針」というように何の基本方針かわかるように修正する。	修正済み
8	浅川副委員長 小畑委員長	「体感」という表現を変えた方がよい。アメリカの「リエナクト」(戦争を再現し、見学者に見せるといったイベント)といったもののイメージがあるため。 「体感」の前に「学ぶ」という言葉をもってきた方がよい。	第2節「基本方針(整備)」の「『田原坂の戦い』を体感し西南戦争遺跡の意義を学ぶための整備を行う」を「西南戦争とは何かを学ぶための整備を行う」に修正する。	修正済み
9	小畑委員長	第2節「基本方針2」の「関係人口」に代わる言葉を検討してほしい。ほかになればこのままでよい。	検討する。	検討中
10	前川委員	保存活用計画のどこかに「鹿児島県と協力して」などの文言を入れる予定はあるか。西南戦争関連の史跡は熊本市外にも存在するため。	検討する。	第7章で記載
11	小畑委員長	第1節「大綱」に西南戦争は、「鹿児島県をはじめとする九州全域」「地域で言えば熊本城・	第1節の「関連する遺跡・史跡が県内外の広範囲に所在」の部分に「九州全域」「熊本城周	修正済み

		玉東町」と整理しておいた方がよい。	辺」という言葉を入れ、文言を整理し、修正する。	
1 2	小畑委員長	キャッチフレーズの主題を「西南戦争遺跡が結ぶ地域の歴史」、副題を「時空を越えて、平和の尊さを伝える田原坂」としてはどうか。	修正する。	修正済み
1 3	高木委員	第2節の活用について、歴史ウォーキングなどは時を経て規模が縮小するのを防ぐため、10年計画で決めておいた方がよい。また、若い世代への継承のために専門家を学校へ派遣し出前講座を行った方がよい。次世代で歴史を勉強する人の育つ環境が大事だと思う。子ども達にも戦争が体感できるようなイベントを行ってほしい。	検討する。	活用内容は第7章で記載 計画期間は第10章で記載予定